



## 夏を添える

---

ピアノが小さな家を作り、  
ギターがそこにぬくもりを添える。

海辺の駅で見た女のひとは、  
美しい頬をしていた。  
プラットフォームで電車を待っている時  
その頬を夏空に向けて、  
小さく息を吐いた。

## 夏時間

---

星まで届くストローで

海の泡を吹き出す

夏服の少女。

## 造物主

---

宇宙に浮かぶ珊瑚礁へ、人間を詰めた水晶をばらまき、そのあと彼は走り去った。  
スニーカーをはいたまま、折れた傘を持って。

## 海の紙片

---

白い壁に寄りかかったまま目を閉じて  
魚群を思い浮かべる。

傾いた地軸を  
アジサシがかすめ飛ぶ。

サンゴの腕に蝶がとまる。

満ち潮に合わせて  
卵塊がいっせいに  
海へ流れ出る。

夢

---

バスターミナルの  
コインロッカーをあけると  
青い海が見えた。

## 真夜中のファンタジー

---

リーフにそそぐ月明かり。  
寝そべって 考えた。

飛ぶ本をどうしたら捕まえられるか。

### ほうき星

あれは  
月に向かって  
プラウを漕ぐ人だ。

### ペンギン

長い眠りの中で  
奇妙な羽飾りを増やしている。

泡立つ星々の中に  
また一冊の本が飛んで行き

ヤシの実が落ちる寸前に  
燃え尽きて 姿を消す。

海へ、星へ

---

枯れたら、  
海へ行け。

星の言葉を、  
聴け。

渦巻銀河  
鳥葬  
アンモナイトの化石。

星の子が梢を揺らすたび  
新たな神話がこぼれ落ちる。

枯れたら、  
海へ行け。

星の言葉を、  
聴け。

## 月とマングローブ

---

沈む魚

浮かぶ魚。

木の根は踊り

青い満月に向かって

枝を伸ばす。

逆さに泳ぐ魚

跳ぶ魚。

饒舌なギーラを

青いステッキで殴りつけ

今宵 満月の空き部屋に 泊まる。

マングローブの空き部屋に 今宵 泊まる。

## 瑠璃色スコール

---

古い城。会話。  
浮きの上に蝶が  
羽を休めている。

視力が次第に戻る。  
二つの椅子。  
太陽の位置。

旅の話。

揃えられたフォークとナイフ

テーブルの端に  
白い帆船が見える。

陶器の代わりにシャコ貝に  
ランの花が映っている。

スコール。棧橋の上から  
穴だらけの海面を見る。

瑠璃色の落雷が  
水平線と教会を断ち切る。

あ . . .

ネコの目の中まで真っ青だ . . .

ヤドカリが時を止める。

---

ヤドカリが時を止める。

海の方を向いたドア。

耳鳴りのようなスコール。

ひととき、穴だらけの水面。

猫はねむそうな目を沖の方へ向ける。

(まっ青だ・・・)

雨雲のわずかな隙間にサバニが見える。

旅人を浸食する青。